

こころの玉手箱 3月号



『羽生結弦 克・勝・喝』

先日行われた北京五輪。羽生結弦選手は、新たな目標「男子94年ぶりの五輪3連覇と前人未到の4回転半ジャンプ(クワッドアクセル)」を掲げ挑戦しました。結果は惜しくも4位でしたが、日々挑戦し続ける羽生選手の姿に私たち観客は心を打たれました。今回はそんな羽生結弦選手の姿に学びました。

☆ 1年生 ☆

- ☆ 「自分自身との闘い。自分で目標を掲げて、それに向かって突き進んでいかなければならない。」という文章に心動かされました。私もこういった経験があり、好きでやり始めたのに嫌々になってしまったことがあるのでこの話を通して私も変わりたいなと思いました。
- ☆ 私はテストでいい点が取れなかったら、自分は頭が悪いからと言ってことを済ませていた。でも、それは自分が勉強をしていないからだ気づいた。だから私も羽生結弦さんのように自分のやるべきことを精一杯していこうと思いました。
- ☆ 羽生結弦さんは、スケートをやりたくないという気持ちに負けずに挑戦していてすごいと思った。支えてくれている人たちに感謝し、何かのせいにしたりして今やっていることを諦めないようにしていきたいです。

☆ 2年生 ☆

- ☆ 私は羽生さんの「地震のせい」というのにドキッとしました。実際に私は自分が嫌だと感じてすることを何かのせいにして逃げたことがあるのを思い出しました。自分ときちんと向き合って目標を達成していきたい。
- ☆ 結弦さんはとても才能がある人だと思っていたが、地震を経験したことでスケートが嫌になった時期があるのを知りました。それでも困難に立ち向かって練習してきた努力が素晴らしいと思いました。自分ができないことが嫌になっても、あきらめないで挑戦するという事を見直していきたいです。
- ☆ 羽生選手のような世界のトップの選手でも、何かのせいにして逃げだしたい時があったことをまず知りました。だから、自分も逃げ出したい時があっても、何かのせいにせず好きで始めたことは、自分に悔いが残らないように全力でしたいと思いました。

○ 先月号の保護者の方からの返信 ○

- ・ 発想力と行動力が相まっていて、凄いなと思いました。いくつになっても堀田さんのように青春の心を持ち続けていたいと思います。打てば響くような心、そうありたいと願います。

保護者の皆さんへ

お子様と意見を交換して、感想などをお気軽にお寄せください。

----- 切り取り線 -----

保護者返信欄 (お子さんを通じて担任までお渡し下さい。)

朝の道徳 R4 3/17 資料： 『 羽生結弦 克・勝・喝 』 A-4

名前は「弓の弦を結ぶように凜とした生き方をして欲しい」と父が命名した。スケートを始めた目的のひとつは^{ぜんそく}喘息を克服することにあつた。姉が^{せんだいし}仙台市の子供スケート教室に通い始め、結弦も4歳でスケートを始めた。小学校3年から個人指導を受けるようになったが、友達と遊びたい時期に練習ばかりがハードになっていたため、この時期スケートが嫌になり、^{つら}辛くて、泣き出したくなった。しかし「好きで始めたことから逃げたくない」と練習を続け、2004年に初出場した全日本ノービス(Bクラス)で優勝。9歳で初めて金メダルを^{かくとく}獲得した。2007年～2008年シーズンにて、まだ中学1年生だったが、全日本ジュニア選手権で3位となる。ノービスの選手が全日本ジュニア選手権の表彰台に上がるのは日本男子史上初であった。その後多くの大会でメダルを獲得し続けている。

2011年3月11日、東日本大震災が発生。地震発生時は仙台市で練習中だった。あまりにも揺れが激しいので、四つん這いでスケート靴をはいたまま外へ避難した。練習リンク場は被災して使用不可となり、自宅も大きな被害を受けたため避難所で4日間を過ごした。多くの死者や行方不明者が発生した時、「もうスケートなんてやっている場合じゃない」と毎日考えていた。10日も滑らずにいたら、筋肉が落ちてしまい、ジャンプが全然飛べなくなっていた。そして、しばらく悩まされたのが、震災当時の記憶。普段から『イメージすること』を大事にしていて、ジャンプを飛ぶときもイメージトレーニングをかなり重視している。地震からしばらくの間は、目を閉じると、あの時の光景が全部浮かんでくるようになってしまった。あまりにも地震の印象が強すぎたので、避難所で眠っていると、その光景が夢にでてきたし、最初の3日間くらいは、何回もうなされた。しかし、震災後に見た世界選手権の外国人選手の活躍を見て、ものすごい悔しさを感じ、「なんで僕はジャンプを跳べないのだろう」と思いながらイメージトレーニングをした。強くなるためのバネとして、ロシアカップの時に負けた悔しさがここにあった。そして、いろいろな人に支えられて練習をまた開始することができた。その時感じたことは『いろいろな人に支えられている』ということ。家族、間接的に募金活動などで助けてくれる人、応援してくれる人、ファンの方など。

そして音楽にも支えられた。ある歌の歌詞を聞いて涙が止まらなくて、「自分はスケートをやるべきだ。」と考えた。一時期は「スケートをやりたくない、もうスケートはいい、こんな地震が起きたのだから、僕はもうしょうがない。こんな苦しい思いをしたうえに、スケートで苦しい戦いなんてもうしなくていい。普通の高校生になって、普通に生活したい。」とすごく思った。でも結局それは、「スケートをやりたくない」という思いを、地震のせいにしていた。もう地震やリンクのせいに絶対したくない。「地震の中で頑張った」、「地震のせいで頑張れなかった」ではなく、普通の選手として、何も関係なく戦えるだけの力をつけたい。自分のやるべきことを精一杯やればいい。ここまできると、ライバルとか、地震とか、練習環境とか、何かに負ける、負けない、そんな問題じゃなくなってきた。もうこれは、自分自身との闘い。自分で目標を掲げて、それに向かつて突き進んでいけないといけない。上を目指していくしか、自分にできることはない。そのために精一杯、やれることは全部やっとうと決心した。

先日行われた北京五輪。羽生選手は、新たな目標を掲げ挑戦した。それは、男子94年ぶりの五輪3連覇と前人未到の4回転半ジャンプ(クワッドアクセル)だ。結果は惜しくも4位であったが、日々挑戦し続ける羽生選手の姿に私たち観客は心を打たれた。